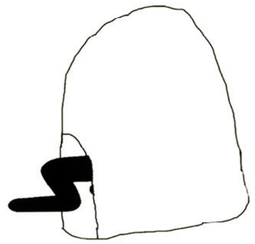
Self-Container

The Record of Personal Space

H: 1700mm W: 1250mm D: 1200mm

Self-Container の予想図



Self-Container の予想図

HOME
as pscylogical shelter

家という空間の解釈は、"HOME"と"HOUSE"がある。

私は、"HOME (家)"を心理的シェルター、
"HOUSE (家)"は身体的シェルターと考える。

私の"家"は前者であり、極めて個人的定義による空間だと考える。

私 にとって"HOME"の空間的条件は2つある。
五感全て知覚できる私の身体に適応した広さの空間。
外部と隔離されている空間。

私にとって"HOME"の空間サイズは、
全てのものに手の届く範囲＝パーソナルスペース*である。

*パーソナルスペース
アメリカの文化人類学者エドワード・ホールによって提唱された
他人に近づかれると不快に感じる空間分類の1つである。

GLASS x HOME
as Intimacy

ガラスを素材とした制作プロセスでは、
息をいれて膨らましたり、手で曲げたり、手や足で磨いたりなど、
身体ととても密接している素材である。

家というのは、身体と空間の関係性で親密さが決まると思う。
その親密さから心理的に及ぼす"あたたかさ"が感じることができる。

ガラスは、身体動作を記録できる素材である。

身体に密接に関係してつくる空間は、
親密さを感じることができるのではないだろうか。

GLASS
as the vehicle of recording personal space

ガラスという素材は、
身体動作によるパーソナルスペースを記録する媒体である。

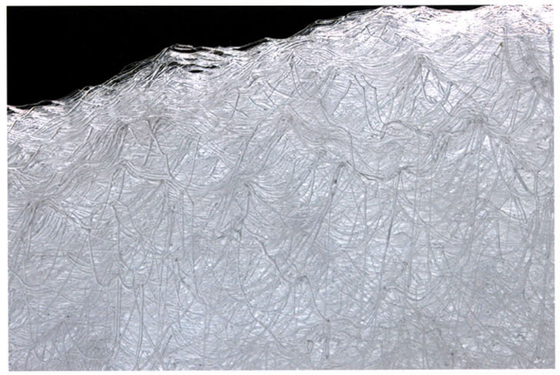
この家のガラスでの制作プロセスは、
まさにアナログの 3Dプリンターで制作しているようである。

1200度の熱いガラスを持ちながら中心で自身が回転し、
ガラスの軌跡でパーソナルスペースを作っていく。

ガラスを媒体とし、身体を装置として、
身体動作を完全に記録し、立体に複写していく。

身体との距離でできた空間の形は、
身体サイズや感情など個々が反映されている副産物である。

何千回も巻かれたガラスの線は、
編むように積み重なり、ガラス同士がしっかり絡まり、
強度が強い構造を形成する。



Self-Container の ディティール:
ガラスの素材の特性とガラスを垂らす高さによって、
このようにザクザクした構造のガラスの線ができる。

Self-Containerの制作プロセス

Self-Containerの制作プロセス

Self-Containerの制作プロセス